

2015年3月24日

日本ユニシス ユニシス技報 通巻123号「特集:社会基盤」を発行

新たな社会基盤の構築に重要な役割を果たす ICT を解説

日本ユニシス株式会社(本社:東京都江東区、社長:黒川 茂、以下 日本ユニシス)は、ユニシス技報通巻123号「特集:社会基盤」を発行しました。

ユニシス技報は、お客さまが抱える経営上の課題や技術的な問題を、日本ユニシスグループが情報技術を活用して実際に解決した方法や努力、成果について紹介する論文誌で、1981年に創刊し、1987年以降は年4回発行しています。

2014年9月に発行した通巻121号「特集:社会基盤」と、今回発行する通巻123号「特集:社会基盤」では、「社会基盤/社会基盤ビジネス」に関する日本ユニシスグループの基本的な考え方、および実際の取り組みを、2回にわたり紹介します。ここでの「社会基盤」とは、ライフラインや、公共施設、通信ネットワーク網といった一般的な意味ではなく、「社会とつながり、情報を集めて、ビジネスを創造して、成長を支えるビジネスプラットフォーム」を指します。また「社会基盤ビジネス」とは、「ICTを活用し、さまざまな業種・業態と連携した新たなサービスを創出する活動」を指します。

今、日本は、成熟した社会にふさわしい新たな社会基盤づくりを進めています。新しい社会基盤では、個々のシステムが単独で機能するのではなく、クラウドを介してネットワークでつながり、状況に応じて柔軟にコントロールできるものとなります。

日本ユニシスグループでは、そうした新たな社会基盤構築において重要な役割を果たすのが ICT であるという考えのもと、生活者の目線で半歩先を捉え、社会基盤の構築に必要なシステムを追求しています。本特集号では、医療、エネルギーマネジメント、個人情報保護に関する日本ユニシスの取り組みと、米国ユニシス社の空港運営ソリューションを紹介しています。

今後も日本ユニシスグループは、ユニシス技報を通じて情報システム構築や運用への取り組みを書きとめ、広くそれらを共有し伝承していくことで、情報技術産業の成熟に「作り手」として寄与していきます。

【ご参考】ユニシス技報 通巻123号「特集:社会基盤」の内容は、以下のとおりです。

巻頭言 特集「社会基盤」の発刊に寄せて

論文

- ・医療ビッグデータの利活用によるサービス創出の枠組み
- ・VPP(Virtual Power Plant)^(注1)で実現する電力の需給管理
- ・民営化空港の運営を支える事業価値向上に寄与する Unisys Airport Solutions^(注2)
- ・予防医療を目指した医療情報統合
- ・プライバシー・バイ・デザインに基づく適正なパーソナルデータの取り扱い

以上

注1：VPP(Virtual Power Plant)

太陽光発電所、自家発電設備など地域にある複数の分散型電源や、電力の需要抑制システムを統合することによって、あたかも一つの発電所のように制御すること。「仮想発電所」とも呼ばれます。

注2：Unisys Airport Solutions

米国ユニシス社の空港運営ソリューション。空港運用に関わる多様な情報を統合し、空港施設の柔軟かつ効率的な稼働、旅客サービスレベルの向上、航空外収入の獲得といった課題への取り組みをサポートします。

関連 URL：

・「ユニシス技報」

http://www.unisys.co.jp/tec_info/

・「空港ソリューション (Unisys Airport Solutions)」

<http://www.unisys.co.jp/solution/airport/>

記載の会社名および商品名は、各企業の登録商標または商標です。

掲載のニュースリリース情報は、発表日現在のものです。その後予告なしに変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。